

村上

布宮慈子
やすこ

小雨降る山形出でてめざしたる海辺の町へわれらがマーチ

山迫る小国、飯豊を抜けてゆく トンネル、トンネル、トンネルあまた

時折は一台のみにて煽られもせずに向かへり村上の町

秋に入り海へところ弾ませて走りぬわれら内陸びとは

村上の静かな町屋の一軒に飾られてをり知り合ひの絵が

何十年ぶりに会ふとふ連れあひの同級生なり 長月は過ぐ

変はりたるそれぞれの面さておきて作品見つつ普通に喋る

村上の町屋に屏風は飾られて今住む人の穏しき顔よ

夜に入り友との語らひ続きたり何十年を縮めるひと日

船のごと海岸線を走るとき左舷に粟島くつきりと見ゆ